様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年 １０ 月 ２４ 日現在

機関番号：１５２０１
研究種目：若手研究
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｋ１４９３１

研究課題名（和文）戦後都市空間の評価と都市計画遺産としての保全・活用方針の検討

研究課題名（英文）Research on evaluation of post war urban space and examination of conservation and utilization policies as urban planning heritage

研究代表者
井上　亮（INOUE, RYO）

島根大学・学術研究院環境システム科学系・助教

研究者番号：９０８０４６１７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：地方都市における戦後の建築・都市計画遺産について調査をした。中四国地方を中心に戦後の都市空間や取り組みについて調査を行ない、特に岡山市を中心に詳細な現地調査を実施し、報告を作成した。住座と呼ばれる岡山市内に5ヵ所ある団地や、闇市に関する調査、建築物・景観に関する表彰制度などについて詳しく調査を行ない、今後のまちづくりに活用可能な資料として取りまとめた。また、徳島市や松山市など四国の中心市街地の現況についても明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
これまで明らかになっていなかった地方都市における戦後の都市空間について、歴史的背景および空間構成の両面から明らかにすることで、単純な空間分析に終わらず、その計画手法の意義を明確にすることができた。また、地方都市における遺産的価値が把握されていない戦後の建築物について、今後のまちづくりの現場に接続していく上で重要な資料として取りまとめることができた。

研究成果の概要（英文）：A survey was conducted on the postwar architectural and urban planning legacy in regional cities. We conducted a survey of postwar urban spaces and initiatives mainly in the Chugoku and Shikoku regions, with a particular focus on Okayama City, where we conducted a detailed field survey and prepared a report. The report includes a detailed survey of five apartment complexes in Okayama City called Juza, a survey of the black market, and a commendation system for buildings and landscapes, and was compiled as materials that can be used for future city planning. The report also provides information on the current status of central city districts in Tokushima City, Matsuyama City, and other cities in Shikoku.

研究分野：都市計画

キーワード：戦後都市空間　景観　都市計画　地方都市　保全・活用

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

近年、戦後に関して大都市を対象とした研究は進んでいるが、地方都市において展開された多様な都市計画の実態は、今後の課題として残されている。戦後の都市計画研究の多くは、歴史学に留めたものが多く、現地調査を丹念に実施し空間評価や遺産的価値の把握を行い、その保全・活用策まで講じたものはほとんどない。そこで本研究では歴史軸と空間・意匠軸から総合的に明らかにすることで、これまで知られていなかった歴史的文脈の継承や現状の空間評価につなげる。現在、戦後都市計画の都市空間は、保全・活用策が講じられていないため、価値を見出される前に取り壊されているケースが多い現状を鑑みると、喫緊の課題といえる。例えば、鳥取市における戦後第一号の防火建築帯は戦後都市計画において重要な位置づけにあるといえるが、鳥取の景観計画には全く記載されていない。また伝統的町並みにおける景観施策は、歴史や空間・意匠を反映させたものになっているが、戦後の中心市街地の景観施策は、全国各地でほぼ似た内容で実施されている。本来なら各地の空間特性を反映させる必要がある。こうした実態から建築物の所有者は自由に改修や建て替えを実施しており、地域文脈を軽視した事態となっているが、その実態は調査されていない。こうした課題に対して、いくつかの都市においては独自の指針によるまちづくりを実施してきているが、大多数の都市では把握しきれていないのが現状である。

２．研究の目的

本研究では、地方都市における戦後の都市計画とそれにより生み出された都市空間を対象とし、歴史的文脈を明らかにすることを目的とする。加えて、詳細な現地調査を実施することで戦後都市計画によって生み出された都市空間の遺産的価値について評価する。そして今後のまちづくりに活用可能な資料として取りまとめていく。これまでの研究では特定の都市に対する個別事業の成果評価にとどまっていたため、本研究では複数の対象地を選定することで比較検証による戦後の都市空間における客観的な位置づけ作業を行い、具体的な保全・活用の方向性となる指針を示すことも目的の一つとする。

空間構成要素と建物の形態

		柳川	大供	大雲寺	清輝橋	水道局	十日市	門田屋敷	合計
緑地		○	○	○	×	×	×	×	3
立体歩道橋		×	×	×	○	○	○	○	4
線路（路面電車）		○	×	○	×	×	×	○	3
円形広場に沿っている建物（環状扇形建築）		9(2)	4(1)	13(4)	9(2)	0	0	7(0)	42(9)
円形広場に沿っていない建物		3	1	1	3	4	7	3	22
対象物件合計		12	5	14	12	4	7	10	64
屋根形式	切妻	0	0	1	1	0	3	3	8
	陸屋根	12	5	3	12	4	4	7	47
	寄棟	0	0	0	0	0	0	2	2
階高	平屋	0	0	0	0	0	5	2	7
	二階	0	1	5	5	1	1	6	19
	三階	3	2	0	4	0	0	1	10
	四階	3	0	3	1	0	1	0	8
	五階	0	0	3	0	0	0	0	3
	六階～七階	1	0	0	1	1	0	1	4
	八階～九階	1	2	1	0	0	0	0	4
	十階以上	4	0	2	1	2	0	0	9

３．研究の方法

本研究では、①歴史的文脈と②現状の空間構成から総合的に戦後の都市計画遺産について明らかにしていく。これまでの研究では、大都市に焦点があてられているため、本研究では地方都市を主として調査する。具体的な作業内容は以下の通りである。

①歴史的文脈（文献調査）

地方都市を中心とした戦後の都市空間について既往研究の収集を行なう。また、現地の図書館や資料館、自治体所蔵の史資料などを収集し、整理する。

②現状の空間構成（現地調査）

コロナの影響により遠方の調査が困難であったため、中四国地方を中心に現地調査を行なう。

４．研究成果

中四国地方（岡山市、下関市、松山市、徳島市）を中心に、現地調査を実施し、各地において戦後の都市計画によってできた建築物に関する記録を作成した。特徴的なものについて概要を報告する。

カウンター

デッドスペース

(1) 岡山市の円形状交差点の活用実態

岡山市街地に現存する 7 つの円形状の交差点について現地調査を行なった。特に、円形状交差点に沿って建てられた環状扇形建築物についてヒアリング調査および図面作成を行なった。

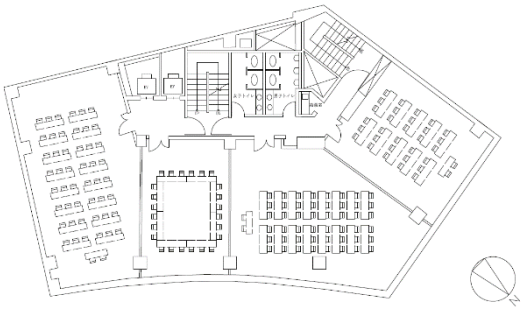
円形状交差点がどのような形態で立地しているのか構成要素を調査し、分析していく。柳川、

円形に沿った看板

イルミネーション

大供、大雲寺、清輝橋、門田屋敷交差点では、半数以上の建物が円形状に沿って建てられていることがわかる。水道局、十日市交差点では、円形状に沿って建てられた建物が１件もないことがわかった。水道局前交差点では、マンションや農業協同組合、水道局など比較的規模の大きい建物が立地している。また、十日市交差点は空地が多く、交差点の周りに建物が少ない傾向がみられた。交差点の規模が大きいほど店舗、ビルが増加し、緑化が見られる傾向がある。比較的規模の大きい交差点には、立体歩道橋が設置されていないことがうかがえる。

柳川・大供・大雲寺交差点にある環状扇形型の建築物計 5 件に対して 2021 年 3 月 31 日にヒアリング調査を実施した。調査の結果、円形部分の用途は事務所、会議室、店舗等で、円形部分の部屋のレイアウトの工夫は見られなかった。しかし、店舗においては建物が曲面になっていることから、曲面をコンセプトに設計したカウンターや内壁を配置している箇所がみられた。また、部屋が扇形になることが多く、部屋のレイアウトが難しいという意見があった。長方形に部屋を使用すると、前後左右に余白ができ活用できていないスペースが多く見られた。窓については、広告として活用していることがあり、曲面になっていることで交差点内から見やすく宣伝効果があると考えられる。2021 年 3 月、岡山市にヒアリングを実施した結果、柳川交差点でイルミネーションなどを行った祭り、アートプロジェクトのイベントが行われていたことが確認できた。また、柳川交差点内の歩行空間で屋台珈琲を行っていた方にヒアリング調査を実施した。



安田岡山磨屋町ビルの平面図

柳川ロータリービル

津島北斗住座①

津島北斗住座②

（2）岡山市の住座の空間構成

戦後すぐに全国的に団地づくりが開始され、岡山市内でも特徴的な「住座」と呼ばれる団地が建設された。そこで岡山市内にある市営団地の「北長瀬みずほ住座（S29 年頃）」「さくら住座（S26 年頃）」「津島北斗住座（S28 年頃）」「巌井三門住座（S26 年頃）」「門田白鳥住座（S24 年頃）」のうち、現存する津島北斗住座の外観・内観の調査を行なった。図面についてもほぼすべての図面を収集することができた。継続して調査を進めていく。

（3）岡山市の表町商店街の歴史的背景

戦後すぐに都市不燃化の重要性が叫ばれた。昭和 27 年に耐火建築促進法、昭和 36 年に防災建築街区造成法が制定された。こうした法律は都市再開発法のルーツになった。

岡山市でも昭和 34 年頃から表町商店街において本格的な不燃化・再開発が開始された。表町商店街の事業は、大規模かつ急速に展開していったことで全国的に注目され、これまでの防火建築帯などの線的再開発から面的再開発という挑戦的な計画案となっている。しかしながら、その不燃化・再開発の計画経緯や実態に関する報告は見られない。そこで、岡山市中心市街地の表町商店街に着目し、当時の不燃化・再開発の構想の背景や計画・実施された建築物の空間構成について調査した。

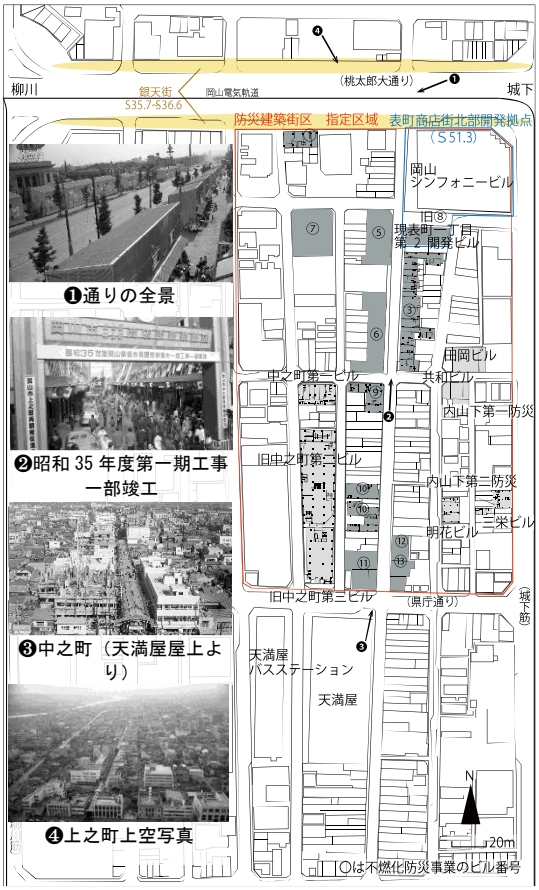
表町商店街の変遷過程

日付		表町商店街およびその周辺における形成史
T14	3月	「天満屋百貨店（木造本館）」が下之町において開業
S11	10月	「天満屋百貨店（RC造新館）」が木造本館の南側に建てられる
S20	6月29日	岡山大空襲
	10月10日	天満屋百貨店が復興開店
S24	12月5日	日本初の百貨店バスステーションであるセントラル・バスステーションを開設
S27	5月31日	耐火建築促進法施行
S32		岡山県庁が旭川畔（表町商店街東側）に新築移転　→　表町がさらに発展
S34	9月～年末	岡山県、市が基本構想をまとめて、建設・大蔵両省へのヒアリングを行った
S35	1月15日	上之町案業会館に関係者全員が集合し、計画具体化への協議がはじまる
	3月	日本建築学会に岡山市中央商業地区再開発マスタープラン立案を委託する
		上之町・中之町再開発促進会結成。開発公社発足。
	5月	公社技術委員会発足。計画の具体化進む。
	6～7月	最盛時には100名を超える技術陣により20日間あまりで設計を完了
	6月中旬	仮店舗（2階建てパイプハウス「銀天街」）建設着工
	7月	城下－柳川間の仮店舗に移転（銀天街）（～昭和36年6月） 木造家屋取り壊し。
	7月23日	起工式、直ちに着工
	12月10日	1・2階工事竣工（7,8号ビル除く）。落成式。
S36	3月末	残工事（3階より上）完了。
	6月1日	防災建築街区造成法施行
	11月末	第2期工事（7,8号ビル）竣工。これによって上之町不燃化事業は一応完了。 耐火建築促進法による事業として11棟建設。
		表町1丁目及び中山下の約6.5haが防災建築街区造成法による防災建築街区の指定を受ける
S40		内山下と中之町で防災事業計画が始まる（造成組合方式）
S41	10月21日	内山下第一防災ビル竣工
S42	8月10日	内山下第二防災ビル竣工
S44	10月10日	中之町第一防災ビル竣工
S47	3月30日	中之町第二防災ビル竣工
	10月31日	中之町第三防災ビル竣工。防災建築街区造成法による事業完了

不燃化事業の流れとして、昭和 34 年頃に不燃化事業に着手し、まずは仮店舗への移転が実施された。昭和 35 年 5 月 15 日から土地の分譲見込み受付を開始し、6 月 8 日には仮店舗を着工した。昭和 35 年 7 月には上之町の 84 戸（内店舗 66 戸）は、電車通り（城下―柳川間）の 50m、道路両側の歩道にある仮店舗に移転した。この仮店舗の商店街は「銀天街」と呼ばれ、パイプ構造 2 階建ての建物が建ち並んだ。1 戸当たり 40 ㎡ほどの店舗併用住宅で、昭和 35 年 7 月～昭和

35 年 12 月（第 1 期）、昭和 36 年 6 月（第 2 期）を賃貸期間とした。仮店舗の利用機関に商店街の旧家屋 87 戸、10,700 ㎡は取り除かれ、突貫工事で新たなビル建設と建築壁面線の後退による街路幅拡幅整備が進行した。着工後わずか 4 ヵ月半の昭和 35 年 12 月 10 日には上之町商店街不燃化事業第一期工事が完成し、この地方初の不燃化商店街となった。

結論として、戦後復興期における岡山市の表町商店街の不燃化について①商業空間の変遷過程、②不燃化事業の経緯と内容、③防火建築の空間構成の 3 点を中心に明らかにした。
①防火建築帯が完成する昭和 35 年までは岡山県庁建設の影響や下之町にある天満屋百貨店を中心とした表町商店街の南側の地区が栄えていた。その後は、上之町や中之町が発展していき北側の地区も栄えていった。
②不燃化の重要性から昭和 35 年度に重点施策に取り上げられ不燃化・高層化計画がスタートした。基本構想から 2 年、工事期間は 1 年ほどの短期間で 10 棟以上の耐火建築を建設しており、その間で高山英華らにもマスタープランを委託していた。だが、その計画と同時並行で工事も進められていたため、高山らの計画は実現されなかった。
③実際の建築物群は、当初案とは大きく異なるものの後背地への動線のための路地空間などは部分的に実現していた。



表町商店街（上之町―下之町）周辺

（4）下関市の団地

山口県下関市竹崎町にある団地およびその周辺にあるグリーンモール商店街を調査した。終戦後、下関駅には 1 万人を超える朝鮮人が集住し闇市が形成された。その名残として現在もグリーンモールと呼ばれる商店街には韓国系の商店が多くあり、韓国の文化が残っている。団地 1 階については建設当初は約 100 軒の商店が集まった市場で、買い物客で繁栄していたが、駅前の商業施設と郊外化により、現在営業している店舗は 7 軒となっている。これら団地の図面をほぼすべて収集した。また、グリーンモール商店街や団地 1 階に関する建物用途の変遷過程について調査した。

団地

グリーンモール

（5）戦後徳島市街地

徳島駅前を中心に、防火建築帯の現存状況を現地にて確認した。また徳島駅から眉山天神下までの両側に軒をつらねる商店や映画館を撤去して、幅 50m の防空広場をつくっており、特徴的である。戦後以降各年のゼンリン住宅地図や史資料を収集した。今後も継続的な調査を実施していく。

徳島駅前

防火建築

（6）戦後松山市街地

松山駅前および松山市駅前、大街道商店街、松山銀天街を中心に、防火建築帯の現存状況を現地にて確認した。戦後以降各年のゼンリン住宅地図や史資料を収集した。今後も継続的な調査を実施していく。

銀天街

松山駅前

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 辰巳詞音、井上亮	４．巻 第28巻
２．論文標題 岡山市の表彰制度受賞作品における緑化空間の実態と維持管理	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本建築学会技術報告集	６．最初と最後の頁 1447-1452
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3130/aijt.28.1447	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 辰巳詞音、井上亮	４．巻 第28巻
２．論文標題 まちなみ景観に寄与する表彰制度の実態と地域性に関する課題　－都道府県及び県庁所在都市の表彰制度を対象として－	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本建築学会技術報告集	６．最初と最後の頁 947-952
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3130/aijt.28.947	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 細谷恵汰、井上亮
２．発表標題 全国の地下街広場における空間構成と利活用実態
３．学会等名 日本建築学会中国支部研究報告集
４．発表年 2022年

１．発表者名 辰巳詞音、井上亮
２．発表標題 全国の表彰制度に関する課題と実態
３．学会等名 日本建築学会大会学術講演梗概集
４．発表年 2021年

１．発表者名 平川真衣、井上亮
２．発表標題 円形交差点に立地する環状扇形建築物の利活用実態
３．学会等名 日本建築学会大会学術講演梗概集
４．発表年 2021年

１．発表者名 辰巳詞音、井上亮
２．発表標題 岡山市の表彰制度受賞作品における緑化および調和の実態
３．学会等名 日本建築学会中国支部研究報告集
４．発表年 2021年

１．発表者名 丹野友紀子、井上亮
２．発表標題 戦後岡山市街地における商業集積の形成と変容過程
３．学会等名 日本建築学会大会学術講演梗概集
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関